



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2024年3月1日

3月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

一つずつ大きくなるみなさんへ

3月は、どの学年でもこの1年のまとめをして、次の学年への希望をもたせます。特に担任からは「家庭への知らせ」を活用して、担任から見たこの1年の子どもの育ちを認めたり、これからの課題を一緒にお話したりしながら、一人一人に手渡すようにしています。

そのときの子どもたちの表情を見ていると、笑顔を見せていたり、はにかんだりしている子どもが多いことに気づきます。悲しそうな顔をしている子に出会うことはまずないといっているでしょう。それは、私たち教師が子どもに迎合して悪いことや課題となっていることを見過ごして、耳障りのいいことだけを伝えているからではありません。

たとえば、ある教科のある観点にCという評価がついているとします。一般的にはCがつくのは「悪い」ように思えます。しかし、それにどれほどのマイナスの価値があるというのでしょうか。私は、Cだからといって叱る必要は全くないと思っています。なぜなら、それはあくまで「令和5年度後期のその教科のその観点において」Cだった。」というだけのことです。大事なのはその先です。担任はCと判定して終わりにはしていないはずで、「こうしたらもっとよくなる」ということを必ずお話しています。裏返せば、Aについても全く同じことが言えます。「Aだからすごい、えらい」のではなく、そのAをもたらしその子の「したこと」にこそ目を向けなければいけません。習ったことを使って何かを試してみたとか、調べたことが生活とつながる実感があったとか、とにかくがむしゃらに練習したとか…。これらの子どもの優れた姿を担当は必ず子どもたちにお話ししているはずで。

この「こうしたらもっとよくなる」と「～したことがよかったね」を家庭と学校が共有し、子どもを中心にそれぞれが手を携えて、どうやって実行していくかを共に考えることが大切なのではと思います。「家庭への知らせ」がそのツールとなり、ご家庭で子どもたちとたっぷりお話するきっかけとなったらうれしいです。そして、子どもたち一人一人が、一つ大きくなる自分に自信と希望が膨らむことを願っています。

蛇足ですが、このAだのCだのは、たかだか学習に限ってのこと。人としての価値の限られたほんの一部です。私たちは誰一人、人としての価値を評価できるわけではないのですから。

保護者の皆様、地域の皆様

まもなく令和5年度も終了いたします。これまで、本校の教育活動に対しましてたくさんのご理解、ご協力、そしてご支援を賜りまして、心より感謝いたしております。ありがとうございました。

令和5年度は5月にコロナが5類に移行し、大幅に教育活動の制限が緩和された年でした。かといって、私たちは「コロナ禍以前に戻す」ことを最優先とはしませんでした。子どもたちが、学校教育目標である「支えあう・聴きあう・学びあう」をどうしたら実現できるかという観点に立ち、新たな教育活動を模索することを優先しました。音楽表現発表会、運動会、給食試食会など形態に変化を加えつつ、何が子どもたちの育ちを支えることになるのかということと同時に、効果的に効率的に行うことも考えてきました。

令和6年度も保護者、地域の皆様と共に、子どもたちのために尽力してまいりたいと思います。皆様におかれましては、今年度と同様に、浜之郷小学校へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。